

1

解答解説のページへ

座標空間の4点 $A\left(-\frac{\sqrt{3}}{2}, \frac{1}{2}, 0\right)$, $B(0, 0, 1)$, $C\left(-\frac{1}{2}, -\frac{\sqrt{3}}{2}, -1\right)$, $D\left(\frac{1}{2}, \frac{\sqrt{3}}{2}, -1\right)$ に対し, $\vec{p} = (1-t)\vec{OA} + t\vec{OB}$, $\vec{q} = (1-s)\vec{OC} + s\vec{OD}$ とおく。ただし, O は原点, s と t は実数とする。

- (1) $|\vec{p}|$, $|\vec{q}|$ と内積 $\vec{p} \cdot \vec{q}$ を s, t で表せ。
- (2) $t = \frac{1}{2}$ のとき, ベクトル \vec{p} と \vec{q} のなす角が $\frac{3}{4}\pi$ となるような s の値を求めよ。
- (3) s と t が実数を動くとき, $|\vec{p} - \vec{q}|$ の最小値を求めよ。

2

解答解説のページへ

$z + \frac{4}{z}$ が実数となるような 0 と異なる複素数 z の全体を D とする。

- (1) D を複素数平面上に図示せよ。
- (2) k を実数とする。 D に属する z で方程式 $k\left(z + \frac{4}{z} + 8\right) = i\left(z - \frac{4}{z}\right)$ を満たすものが存在するような k の値の範囲を求めよ。ただし、 i は虚数単位を表す。

3

解答解説のページへ

数字の 2 が書かれたカードが 2 枚、同様に、数字の 0, 1, 8 が書かれたカードがそれぞれ 2 枚、あわせて 8 枚のカードがある。これから 4 枚を取り出し、横一列に並べてできる自然数を n とする。ただし、0 のカードが左から 1 枚または 2 枚現れる場合は、 n は 3 桁または 2 桁の自然数とそれぞれ考える。例えば、左から順に 0, 0, 1, 1 の数字のカードが並ぶ場合の n は 11 である。

- (1) a, b, c, d は整数とする。 $1000a+100b+10c+d$ が 9 の倍数になることと $a+b+c+d$ が 9 の倍数になることは同値であることを示せ。
- (2) n が 9 の倍数である確率を求めよ。
- (3) n が偶数であったとき、 n が 9 の倍数である確率を求めよ。

4

解答解説のページへ

座標平面上に 3 点 $O(0, 0)$, $A\left(\frac{15}{2}, 0\right)$, $B(11, 11)$ がある。条件 $BQ \geq OQ \geq 2AQ$ を満たす点 $Q(x, y)$ の全体を D とする。

- (1) D を座標平面上に図示せよ。また, $BQ = OQ = 2AQ$ となるすべての点 Q の座標を求めよ。
- (2) $0 < p \leq 11$ とし, P を点 $(p, 11)$ とする。条件 $OQ \geq PQ$ を満たす D の点 Q が存在するような p の値の範囲を求めよ。

5

解答解説のページへ

2つの関数 $f(x) = \cos x$, $g(x) = \sqrt{\frac{\pi^2}{2} - x^2} - \frac{\pi}{2}$ がある。

- (1) $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ のとき, 不等式 $\frac{2}{\pi}x \leq \sin x$ が成り立つことを示せ。
- (2) $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ のとき, 不等式 $g(x) \leq f(x)$ が成り立つことを示せ。
- (3) $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ の範囲において, 2つの曲線 $y = f(x)$, $y = g(x)$ および y 軸が囲む部分の面積を求めよ。

1

問題のページへ

(1) 条件より, $\overrightarrow{OA} = \left(-\frac{\sqrt{3}}{2}, \frac{1}{2}, 0\right)$, $\overrightarrow{OB} = (0, 0, 1)$, $\overrightarrow{OC} = \left(-\frac{1}{2}, -\frac{\sqrt{3}}{2}, -1\right)$,

$\overrightarrow{OD} = \left(\frac{1}{2}, \frac{\sqrt{3}}{2}, -1\right)$ なので, $|\overrightarrow{OA}|^2 = |\overrightarrow{OB}|^2 = 1$, $|\overrightarrow{OC}|^2 = |\overrightarrow{OD}|^2 = 2$ となり,

$$\overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OB} = \overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OC} = \overrightarrow{OA} \cdot \overrightarrow{OD} = \overrightarrow{OC} \cdot \overrightarrow{OD} = 0, \quad \overrightarrow{OB} \cdot \overrightarrow{OC} = \overrightarrow{OB} \cdot \overrightarrow{OD} = -1$$

ここで, $\vec{p} = (1-t)\overrightarrow{OA} + t\overrightarrow{OB}$, $\vec{q} = (1-s)\overrightarrow{OC} + s\overrightarrow{OD}$ から,

$$|\vec{p}|^2 = (1-t)^2 \cdot 1 + 2t(1-t) \cdot 0 + t^2 \cdot 1 = 2t^2 - 2t + 1, \quad |\vec{p}| = \sqrt{2t^2 - 2t + 1}$$

$$|\vec{q}|^2 = (1-s)^2 \cdot 2 + 2s(1-s) \cdot 0 + s^2 \cdot 2 = 4s^2 - 4s + 2, \quad |\vec{q}| = \sqrt{4s^2 - 4s + 2}$$

$$\vec{p} \cdot \vec{q} = (1-t)(1-s) \cdot 0 + (1-t)s \cdot 0 + t(1-s) \cdot (-1) + ts \cdot (-1) = -t$$

(2) $t = \frac{1}{2}$ のとき, (1)より, $|\vec{p}| = \sqrt{2 \cdot \frac{1}{4} - 2 \cdot \frac{1}{2} + 1} = \frac{1}{\sqrt{2}}$, $\vec{p} \cdot \vec{q} = -\frac{1}{2}$ となり,

$$-\frac{1}{2} = \frac{1}{\sqrt{2}} \cdot \sqrt{4s^2 - 4s + 2} \cdot \cos \frac{3}{4}\pi, \quad \sqrt{4s^2 - 4s + 2} = 1$$

すると, $4s^2 - 4s + 1 = 0$ すなわち $(2s-1)^2 = 1$ となり, $s = \frac{1}{2}$ である。

(3) (1)から, $|\vec{p} - \vec{q}|^2 = |\vec{p}|^2 - 2\vec{p} \cdot \vec{q} + |\vec{q}|^2 = (2t^2 - 2t + 1) + 2t + (4s^2 - 4s + 2)$ となり,

$$|\vec{p} - \vec{q}|^2 = 2t^2 + 4s^2 - 4s + 3 = 2t^2 + 4\left(s - \frac{1}{2}\right)^2 + 2$$

これより, $t = 0$, $s = \frac{1}{2}$ のとき, $|\vec{p} - \vec{q}|$ は最小値 $\sqrt{2}$ をとる。

[解説]

ベクトルの内積についての成分計算という内容です。

2

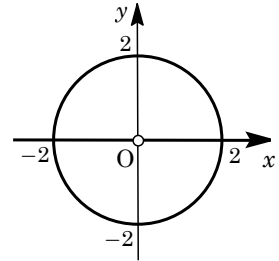
問題のページへ

(1) $z \neq 0$ のとき, $z + \frac{4}{z}$ が実数なので, $z + \frac{4}{z} = \overline{z + \frac{4}{z}}$ となり,

$$z\overline{z}(z - \overline{z}) + 4(\overline{z} - z) = 0, (z - \overline{z})(z\overline{z} - 4) = 0$$

$$(z - \overline{z})(|z|^2 - 4) = 0$$

よって, $z = \overline{z}$ または $|z| = 2$ から, z は 0 でない実数または絶対値が 2 の複素数である。これを複素数平面上に図示すると, 右図の太線部となる。ただし, 原点は除く。



(2) k を実数とし, 方程式 $k(z + \frac{4}{z} + 8) = i(z - \frac{4}{z})$ ……① に対して, (1) から,

(i) z が実数 ($z \neq 0$) のとき

$k(z + \frac{4}{z} + 8)$ および $z - \frac{4}{z}$ は実数より, $z - \frac{4}{z} \neq 0$ のときは①が成立しない。

すると, $z - \frac{4}{z} = 0$ から $z = \pm 2$ となり, このとき $k = 0$ である。

(ii) z が $|z| = 2$ を満たす虚数のとき

$z = 2(\cos\theta + i\sin\theta)$ ($\sin\theta \neq 0$) と表せ, $\frac{4}{z} = 2(\cos\theta - i\sin\theta)$ から,

$$z + \frac{4}{z} = 4\cos\theta, z - \frac{4}{z} = 4i\sin\theta$$

①に代入すると, $k(4\cos\theta + 8) = -4\sin\theta$, $k = -\frac{\sin\theta}{\cos\theta + 2}$ ……②

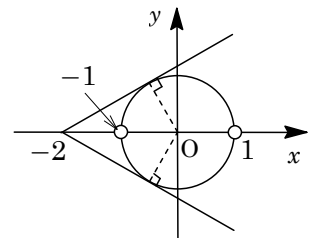
②から, $-k = \frac{\sin\theta - 0}{\cos\theta - (-2)}$ と表せ, $-k$ は原点が中心

の単位円周上の点 $(\cos\theta, \sin\theta)$ と点 $(-2, 0)$ を結ぶ線分の傾きとなる。

そこで, $\sin\theta \neq 0$ に注意し, 右図の円の接線と x 軸のなす角が $\pm 30^\circ$ から, $-\frac{1}{\sqrt{3}} \leq -k \leq \frac{1}{\sqrt{3}}$ ($k \neq 0$) となり,

$$-\frac{1}{\sqrt{3}} \leq k \leq \frac{1}{\sqrt{3}} \quad (k \neq 0)$$

(i)(ii)より, ①が成り立つ k の値の範囲は, $-\frac{1}{\sqrt{3}} \leq k \leq \frac{1}{\sqrt{3}}$ である。



[解説]

複素数についての総合的な問題です。(1)では「 z が実数 $\Leftrightarrow z = \overline{z}$ 」に着目して数式処理をしています。また, (2)は①式の形から極形式を設定しました。なお, 後半は微分法の利用でも構いませんが, 上記の線分の傾きを対応させる方法も有名です。

3

問題のページへ

(1) a, b, c, d を整数とすると、

$$1000a + 100b + 10c + d = 9(111a + 11b + c) + (a + b + c + d)$$

すると、 $9(111a + 11b + c)$ は 9 の倍数なので、 $1000a + 100b + 10c + d$ が 9 の倍数になることと $a + b + c + d$ が 9 の倍数になることは同値である。

(2) 数字の 0, 1, 2, 8 の書かれたカードが 2 枚ずつ、あわせて 8 枚のカードから、4 枚を取り出し、横一列に並べる。そして、このときできる自然数を n とする。

まず、 ${}_8C_4 \times 4! = 70 \times 4!$ 通りが同様に確からしいとする。

ここで、 n が 9 の倍数であるのは、(1) から各位の和は 18 または 9 である。

(i) 各位の和が 18 のとき

1, 1, 8, 8 または 0, 2, 8, 8 のカードを並べることが対応し、その確率は、

$$\frac{{}_2C_2 \times {}_2C_2 \times 4!}{70 \times 4!} + \frac{{}_2C_1 \times {}_2C_1 \times {}_2C_2 \times 4!}{70 \times 4!} = \frac{5}{70}$$

(ii) 各位の和が 9 のとき

0, 0, 1, 8 のカードを並べることが対応し、その確率は、

$$\frac{{}_2C_2 \times {}_2C_1 \times {}_2C_1 \times 4!}{70 \times 4!} = \frac{4}{70}$$

(i)(ii) より、 n が 9 の倍数である確率は、 $\frac{5}{70} + \frac{4}{70} = \frac{9}{70}$ である。(3) n が偶数となるのは一の位が 0, 2, 8 のいずれかより、その確率は、

$$\frac{{}_6P_1 \times {}_7P_3}{70 \times 4!} = \frac{1260}{70 \times 4!}$$

また、 n が偶数かつ 9 の倍数となる時、その確率は、

(i) 1, 1, 8, 8 または 0, 2, 8, 8 のとき

$$\frac{{}_2C_2 \times {}_2C_2 \times {}_2P_1 \times 3!}{70 \times 4!} + \frac{{}_2C_1 \times {}_2C_1 \times {}_2C_2 \times 4!}{70 \times 4!} = \frac{108}{70 \times 4!}$$

(ii) 0, 0, 1, 8 のとき

$$\frac{{}_2C_2 \times {}_2C_1 \times {}_2C_1 \times {}_3P_1 \times 3!}{70 \times 4!} = \frac{72}{70 \times 4!}$$

(i)(ii) より、 $\frac{108}{70 \times 4!} + \frac{72}{70 \times 4!} = \frac{180}{70 \times 4!}$ となる。

したがって、 n が偶数であったとき、 n が 9 の倍数である条件付き確率は、

$$\frac{180}{70 \times 4!} \div \frac{1260}{70 \times 4!} = \frac{1}{7}$$

[解説]

確率の標準的な問題です。なお、8 枚のカードはすべて異なるとして数えています。

4

問題のページへ

(1) 点 $O(0, 0)$, $A(\frac{15}{2}, 0)$, $B(11, 11)$, $Q(x, y)$ に対して, まず $BQ \geq OQ$ から,

$$(x-11)^2 + (y-11)^2 \geq x^2 + y^2, \quad x + y \leq 11 \cdots \cdots \textcircled{1}$$

次に, $OQ \geq 2AQ$ より, $x^2 + y^2 \geq 4\{(x - \frac{15}{2})^2 + y^2\}$ となり,

$$x^2 + y^2 - 20x + 75 \leq 0, \quad (x-10)^2 + y^2 \leq 25 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

そして, ①②の境界線の交点は, $x + y = 11$ と $x^2 + y^2 - 20x + 75 = 0$ を連立し,

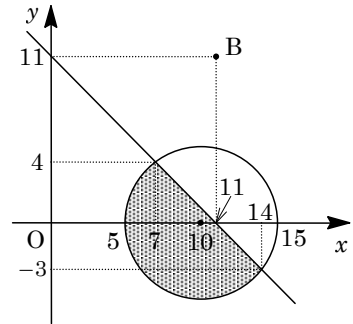
$$x^2 + (11-x)^2 - 20x + 75 = 0, \quad x^2 - 21x + 98 = 0$$

すると, $(x-7)(x-14) = 0$ から, $x = 7, 14$ となり,

$$(x, y) = (7, 4), (14, -3)$$

よって, $BQ \geq OQ \geq 2AQ$ を満たす点 Q の全体 D は右図の網点部となる。ただし, 境界は領域に含む。

また, $BQ = OQ = 2AQ$ となる点 Q の座標は, $(7, 4), (14, -3)$ である。



(2) $0 < p \leq 11$ で点 $P(p, 11)$ に対し, $OQ \geq PQ$ より,

$$x^2 + y^2 \geq (x-p)^2 + (y-11)^2, \quad 2px + 22y \geq p^2 + 121 \cdots \cdots \textcircled{3}$$

すると, 領域③の境界線は線分 OP の垂直二等分線, すなわち点 $(\frac{p}{2}, \frac{11}{2})$ を通る傾き $-\frac{p}{11}$ の直線であ

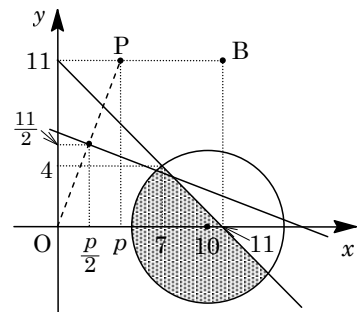
り, 領域③はこの直線について O と反対側である。

ここで, $-1 \leq -\frac{p}{11} < 0$ より, 領域③を満たす D の点 Q が存在する条件は, 点 $(7, 4)$ が③に含まれることであり,

$$14p + 88 \geq p^2 + 121, \quad p^2 - 14p + 33 \leq 0$$

すると, $(p-3)(p-11) \leq 0$ となり, $3 \leq p \leq 11$ である。

なお, この値の範囲は $0 < p \leq 11$ を満たしている。



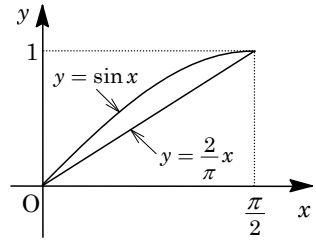
[解説]

不等式と領域が題材の問題です。(2)は数式処理だけでなく, その意味も加味して記述した方がよいでしょう。直感的な部分は残ってしまいますが。

5

問題のページへ

- (1) $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ のとき, $y = \sin x$ は単調増加し, そのグラフは上に凸である。また, $y = \frac{2}{\pi}x$ のグラフは, 原点と点 $(\frac{\pi}{2}, 1)$ を結ぶ線分である。



すると, $\frac{2}{\pi}x \leq \sin x$ ($0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$) が成立する。

- (2) $f(x) = \cos x$, $g(x) = \sqrt{\frac{\pi^2}{2} - x^2} - \frac{\pi}{2}$ に対して, $h(x) = f(x) - g(x)$ とおく。

$$h(x) = \cos x - \sqrt{\frac{\pi^2}{2} - x^2} + \frac{\pi}{2}, \quad h'(x) = -\sin x + \frac{x}{\sqrt{\frac{\pi^2}{2} - x^2}}$$

ここで, (1) から, $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ のとき, $-\sin x \leq -\frac{2}{\pi}x$ となるので,

$$h'(x) \leq -\frac{2}{\pi}x + \frac{x}{\sqrt{\frac{\pi^2}{2} - x^2}} = \frac{x}{\pi} \left(-2 + \frac{1}{\sqrt{\frac{1}{2} - \left(\frac{x}{\pi}\right)^2}} \right)$$

$$0 \leq \frac{x}{\pi} \leq \frac{1}{2} \text{ から } \frac{1}{2} \leq \sqrt{\frac{1}{2} - \left(\frac{x}{\pi}\right)^2} \leq \frac{1}{\sqrt{2}} \text{ となり, } \frac{x}{\pi} \left(-2 + \frac{1}{\sqrt{\frac{1}{2} - \left(\frac{x}{\pi}\right)^2}} \right) \leq 0$$

よって, $h'(x) \leq 0$ となり, $0 \leq x \leq \frac{\pi}{2}$ で $h(x) \geq h(\frac{\pi}{2}) = 0 - \frac{\pi}{2} + \frac{\pi}{2} = 0$ から,

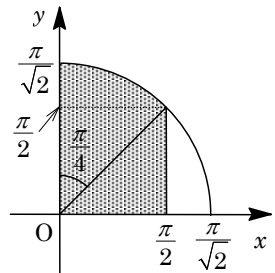
$$g(x) \leq f(x)$$

- (3) 曲線 $y = f(x)$, $y = g(x)$ および y 軸が囲む部分の面積 S は, (2) から,

$$S = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \{f(x) - g(x)\} dx = \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos x dx - \int_0^{\frac{\pi}{2}} \sqrt{\frac{\pi^2}{2} - x^2} dx + \int_0^{\frac{\pi}{2}} \frac{\pi}{2} dx$$

ここで, 定積分 $\int_0^{\frac{\pi}{2}} \sqrt{\frac{\pi^2}{2} - x^2} dx$ の値は, 右図の網点部の面積が対応することより,

$$\begin{aligned} S &= 1 - \left\{ \frac{1}{2} \left(\frac{\pi}{\sqrt{2}} \right)^2 \cdot \frac{\pi}{4} + \frac{1}{2} \left(\frac{\pi}{2} \right)^2 \right\} + \frac{\pi}{2} \cdot \frac{\pi}{2} \\ &= 1 - \frac{\pi^3}{16} - \frac{\pi^2}{8} + \frac{\pi^2}{4} = 1 + \frac{\pi^2}{8} - \frac{\pi^3}{16} \end{aligned}$$



[解説]

微分の応用と定積分と面積についての融合問題です。(1)は, (2)と同様に処理ができますが, (2)の前座のような雰囲気でしたので, グラフを示して終わりとしています。